

西照

西照寺寺報「さいしょう」

第29号

2011年8月17日

発行 浄土真宗本願寺派 西照寺

高岡市吉久2丁目4-40

西照寺ホームページ nisitera.eek.jp

祠堂永代経 勤修

左記のとおり今年度の祠堂永代経をお勤めいたします。
お参りくださいませ。

おつとめの時間

八月二十四日(水) 午後二時〜

二十五日(木) 午前九時半〜

布教使 池内瑞雄師(射水市中央町 円徳寺住職)

西谷山西照寺

合掌子ども会 児童募集

子どもたちに仏さまの心が届くように……。合掌子ども会は、おつとめとゲームが中心のお寺でひらかれている子ども会です。

対象 小学生

毎月一回。学校が休みの日。一時間半程度開きます。申込みいただければその都度開催日をご案内します。会費は無料ですが、初回のみ聖典などの費用五百円が必要です。(西照寺 TEL84-0705)



しょうしんげ 正信偈のはなし 第六話

ほんがんみょうじょうしよじょうじょう (ほんがん みょうじょう しよじょうじょう)

本願名号正定業 (本願の名号は正定の業なり)
しんしんきょうがんにいん しんしんきょう がん だいじゅうはちがん
至心信樂願為因 (至心信樂の願(第十八願)を因とす)

いのちに目覚める

自分のいのちは自分のものである。私たちは何となくそう思っています。本心にそうなのでしょいか。

実際は、生まれようと思つたのではないのに、生まれてきた。折角生まれてきたのだから何時までも若くて健康でありたいと思つても、自分の意志とは関係なくやがて年をとり病気になるって、死にたくもないのに死んでいかななくてはならない。全く自分の自由にならないのちです。

また、自分の力で生まれてきたわけでもありません。誰もが掛替えない両親を縁としていただいた「与えられたいのち」です。しかも、自分一人では支えることのできない、無数のはたらきによって支えられていたいのちでした。

こういうのを自分のいのちと言うのでしょいか。

子供さんを亡くされた親御さんで、何年たつても「ごんげはん、何か心の中にぽっかり穴が空いたようで、辛いです」と話される方を何か知っています。その親御さんにとっては、お子さんが大切な支えであり、自分の中で大きな位置を占めていたのでしよう。それを無くして改めて私のいのちの中身に気づかされたわけです。私という存在の中身は誰が占め支えてくれているのか。妻であり、子であり、友人であり、数えようもない多くの人たちが私を支えていてくれていた。それを無くして、そうだったなあと気づくのでしよう。

人だけではなくて、動植物も私を支えてくれました。

東京に鳥山敏子という先生がいます。昭和五十年代、小学校高学年を対象に「ニワトリを殺して食べる授業」や解体したブタを教室に並べて「ブタ一頭丸ごと食べる」など、屠畜体験学習のさががけとなられた方です。

ある秋の日に、近所の農家や保護者の協力を得て、多摩川の河川敷にニワトリを二十羽余り放つ。小学四年生総勢九十名以上。

子供たちにニワトリを捕まえさせて、首をひねり切断して、逆さに吊るして血を出す。充分血を出し切ったところで、煮だつたお湯に入れる。そして毛をむしって解体料理をするんです。そのことを子供た

ちに手伝わせます。

なかには泣きじやくりながら、「なんで可哀そうな残酷なことをするんだ」とニワトリを抱えて逃げ回る子供もいます。先生は、その子供からニワトリを取り上げ「あなたもいつか見なさい」と言ってそれを見せます。

こんな可哀想なことをして、「ニワトリの肉は食べません」と言っていた子供達もやがて、空腹のために食べていくようになりました。

子供たちはどのように感じたのでしょうか。後で作文を書かせています。

幾つか印象に残ったのを紹介しますと、

「人間というのが、あくまのようにかんじました」

「すごく悲しかった。なきながら人間はなぜこんな残こくなこ

とをするのか。なぜ人をころすとけいむしよ行きで、なぜニワトリだとけいむしよ行きにならないんだ」

「人間って、そんなにおそろしいものかと思ったけど、自分もそんな人間の一人です」

ここには、人間としての「悲しさ」や「罪悪性」を感じていく心が芽生えています。その心を通して、違う世界が開かれていきます。「食べられる方はかわいそうです。だからといって、食べなかった

ら、ぎやくに人間が死んでしまいます。だから、食べ物を食べるということは、命をもらうことだから、食べ物を残してはいけないと思います」

「ほくたちの腹の中は、動物や植物の命がいっぱいはいつている」

「これから、体を大切にしたいです」

私の中には、ニワトリやブタやダイコンやニンジンやたくさんの命が入っているから、(私だけの命ではないのだから)私の体を大切にしていこうというのです。

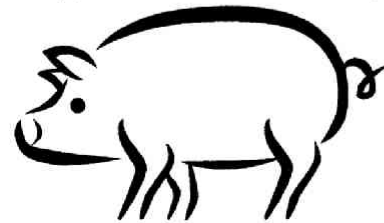


私を支えているのは、人や動植物だけではありません。太陽の光と熱、水や空気、大地の支え、無数の大自然の恩恵に支えられています。

つまり、私とは何かと言えば、私以外の無数のはたらきや命が集まって、私というものを仮に形作っている。確かに私のいのちであり、私の所有物のように思っている私がいることは間違いがありません(そのことが私の迷いの根源であると釈尊は教えてくださっています)。しかし、私の中身は何かと言えば、(裏面に続く)

(中面から続く) 無数のはたらきや命である。そしてそれは、どこかでつながり関係し合っている、言わば宇宙が一つのようないのちの世界です。「公のいのち」と表現してください。先生がいますが、まさしく、私は「私のないのち」を生きているように思っています。私が、本当は「公のいのち」を生きているということが真実なのでしょう。

釈尊は、自ら悟ったいのちの真実の世界を、すべての衆生(生きとし生けるもの)を必ず救うという阿弥陀如来の本願として説いてくださいました。



私が、「私のないのち」を生き自己中心的な救済を願うのに対して、そんなところにあなたのいのちを満足させる世界はない。だって、あなたは「公のいのち」を生きているのだからと、その心は「すべてのものの救済を願うことだ」と私に届けられているように思います。親鸞聖人は「この一如(宇宙が一つであるような公のいのち)よりかたちをあらはして」法蔵菩薩と名乗って、私たちを救うために大誓願(阿弥陀仏の本願)を起こしてください。だいたいだけかれています。阿弥陀仏になられる前の修業時代の法蔵菩薩が、四十八の願いを

起こしそれが完成して阿弥陀仏となったことが、大無量寿経に説かれています。四十八願の根本は十八願(第十八番目の願)で、意識でいうと

「わたしが仏になるとき、すべての人々が心から(至心)信じて(信樂)、わたしの国に生れたいと願い、わずか十回でも念仏して、もし生れることができないようなら、わたしは決してさとりを開きません。ただし、五逆の罪を犯したり、仏の教えを謗るものだけは除かれます」となります。「至心信樂の願」ともいわれています。

要するに念仏(名号)一つですべてのものを浄土に迎えとって救うということ。阿弥陀仏がつくられた因だから、正定(間違いなく救われること)に定まった)の業(行い)といわれるのです。

原口針水和上は、
われ称え われ聞くなれど 南無阿弥陀仏
つれてゆくぞの 親のよびこえ
とうたわれています。

名号(南無阿弥陀仏)を称える中に、「公のいのち」の精神に帰ってきなさいという阿弥陀の呼びかけを聞いて行かれたのでしよう。